

電子記録マネジメントフォーラム2010 開催される

—電子記録管理の課題と対応—

ドキュメントマネジメントシステム部会 部会長
伊藤 泰樹

J B M I Aドキュメントマネジメントシステム（DMS）部会は、電子記録に係わる団体とともに電子記録マネジメントフォーラムを共催しました。

【日時】3月15日（月）13:25～17:00

【会場】工学院大学 新宿キャンパス

【主催】電子記録マネジメントフォーラム運営委員会

【共催】ARMA International 東京支部

次世代電子商取引推進協議会 (ECOM)

(社)ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMA)

(ドキュメントマネジメントシステム部会)

(社)日本画像情報マネジメント協会 (JIIMA)

(財)日本データ通信協会 タイムビジネス協議会 (TBF)

【後援】総務省



今や電子文書は社会の隅々にまで浸透し、組織内外の活動は、電子文書を抜きにしては考えられません。電子文書を記録として活用・保存していくことによって、組織内外の活動のみならず、社会全体の効率を向上させていくことができます。しかしながら、様々な理由から、電子的な手段による記録は期待されたとおりに取得、維持、活用されていません。

かかる状況に鑑み、電子的な記録にかかわる団体が集まり、電子記録マネジメントコンソーシアムを設立して記録のマネジメント基盤の確立を図ることとなりました。その発足にあたり、電子記録マネジメントコンソーシアムの設立趣旨を広くご理解いただくために、当フォーラムを開催しました。

講演内容

牧野総合法律事務所弁護士法人の牧野二郎弁護士による「記録管理の重要性～企業活動の効率化・透明化・企業秘密の流出防止～」と題する基調講演に続き、ECOM客員研究員の木村道弘氏より電子記録マネジメントコンソーシアムの推進体制と活動方針が説明されました。

休憩を挟んで、共催5団体と（財）日本情報処理開発協会および（社）電子情報技術産業協会を代表するパネラーが現状の課題と期待をそれぞれ表明したあと、コーディネータの牧野弁護士とパネラーによるパネルディスカッションが行われ、現状とあるべき姿のギャップとその原因について、文書管理による企業効率向上に電子データのメリットが生かしきれていないこと、電子化を前提として法律が押さえられている欧州との対比、読める分かるガイダンスの必要性などが議論されました。

この結果、アンケートに回答いただいたほとんどの方から、電子記録マネジメントコンソーシアムの設立趣旨を理解できたとの回答をいただくことができました。

